

# せんなんのたからもの かいしいどうんの マママップ

## だいし michi 大師道

浜街道（孝子越え街道）の樽井から、長山に沿って進む平坦な道が「大師道」です。  
熊野街道を横切ると弘法大師（空海）像がある林昌寺にたどり着きます。

泉州の弘法大師信仰の道として、海側に住む人々が樽井から脇道にそれ、野中を歩くように作られた、浄土に向う参詣道だったのでしよう。

短時間で散策できる格好の遊歩道としてお楽しみください。

この地図は市民の方々と行政がアイデアをだしあって作成しました

和泉砂岩と泉南の名工

江戸時代、鳥取ノ荘（阪南市）で採掘される和泉砂岩が有名（『和泉名所図絵』）。出荷することどまらず、名工と称される石工も多数輩出した。樽井出身の名工の名が今も残る（樽井町誌）。石屋半四郎

名をあげ、江戸で 居を構えた後も、樽井から来る人々の面倒をよく見たそうだ。「江戸に上がる当時の村民は「江戸に半四郎あり」と親の元に帰るような気持で気丈夫に江戸にいった」と今に伝えられる。

### 奈良利兵衛

その名は「近畿一円に知られるほど」。彼の一門の作品は、地元泉南では専徳寺の天水杵、茅渟神社拜殿前の石灯籠。他では、京都鶯橋や和歌浦のめがね橋がある。

### 銅鐸 林昌寺裏山で発見

大阪南部では数少ない銅鐸のひとつ。明治三十六（1903）年に竹林をつくろうと開墾したところ見つかったもの。現在、府立弥生文化博物館に常設展示。

### 玉ねぎ小屋

市内の田園を見渡すと必ず目に付くのがこの建物。収穫した玉ねぎを乾燥させるための小屋で、瓦葺やトタン屋根など個性豊か。

### 泉南の秋祭り やぐら

毎年十月に行われる五穀豊穣を感謝するもの。主役は二輪の山車。若者たちが音頭と共に曳きまわす姿は勇壮。

## 大師道周辺のせんなんのたからもの

泉南らしいっぱいの有形無形の文化遺産を紹介します



交差点「大鳥居」の北東角から撮影  
背後に狛犬や燈籠が見える

「おんどり」にあつた大鳥居 昭和十七年頃の写真。大鳥居が移設されたのは、昭和四十年代。通行するダンブカーの振動で、台座ごと崩れたため。その時、ちょうど居合わせた持ち主が写真を添えて教えてくれた。



人の背丈ほどの長さ

ヨウシキのこぎり 持ち主の父が、昭和初期に市内の里山にある松の木などを切るときに使っていたもの。他にも「スクドカキ」と呼ばれる松の落ち葉集めなどで燃料を集めていた。これが結果的に里山の手入れになりマツタケは毎年豊作。当時は「いやというほど採れた」そうだ。



作り方を知るの  
現在は2人のみ



昭和二十一年に新調  
最近大修理もすませたばかり

ほうきとうきびのほうき 昭和二十年代までほとんどの農家が副業として作っていたもの。目が細かいので、チリがよく取れ、畳や建具をいためる心配もなし。びっくりするほど長持ちで、持ち主が六十年ほど前に作ったほうきが、いまだに現役だ。

ミニやぐら 持ち主によると「樽井にはミニやぐらが少なくとも三台以上ある」とのこと。持ち主の父が大工さんに作ってもらったもので「戦後の物不足の時代に、よくこないいい材料をあつめたものだ」と関心するほどのつくり。最近、彫り物を手直しするなどの大修理も済んだばかりのこと。



自然がつくった芸術品

和泉の壺石 持ち主の父が四十年ほど前、竹藪で偶然みつけたもの。専門家によると「湯鉄鉱」と呼ばれるもの。土中の鉄分が小石などを芯にして殻状に固まったもの。泉南では約三百年前の地層でみつかると。古来、「禹余糧」とよばれ、熱などの薬として珍重されていた。奈良時代、光明皇后が東大寺に献納。正倉院で今も保管されている。



昭和26年に撮影 写真中央の小山は現在も残り（↑このあたり）、砂川公園で確認できる



孝行臼 江戸時代、歯の弱ったお年寄りに、食べものをすりつぶすための道具。和泉砂岩製で、当時の大坂における石材の間屋街「長堀の石浜」でも扱われていた（『撰津名所図会』）。庶民に身近な品物だったのか歌舞伎、文楽の『新版歌祭文』のセリフにもある。



ちよんな 持ち主によると、明治時代から昭和二十年代まで使っていたとのこと。当時市内の里山には、太さが1mもあるような松の太木が多く、民家の梁や「ウシキ（大屋根を支える大きな梁）」につかうために切り出されていた。このチョンナは、山から切り出した松の木の皮を削り取るのに使った。



今は風化している文字もこの拓本では読み取れる

碑文の拓本 林昌寺境内にある石碑の拓本。補陀落渡海碑といい、わずかな食料を積んだ船で観音菩薩の住む補陀落山めぐし船出する捨身行「補陀落渡海」があったことを示す石碑。

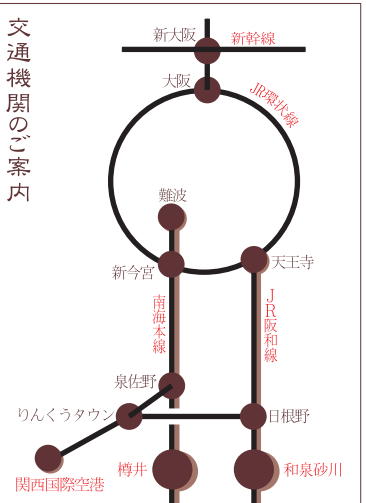
せんなんのたからもの  
市内資源発見活用（せんなんのたからもの）事業の応募物件。市に関係があり、持ち主が大切に思い、活用したいと強く思う、有形無形の文化遺産です。現在は、応募物件の活用をすすめ、市域のエコミュージアム化を目標としています。



躑躅山林昌寺 別名「お大師さん」。真言宗の寺院で境内からは大阪湾や、熊野街道沿いの家並みを一望できる。庭園は重森三玲が、昭和三十六（1961）年に作庭。境内には、全国的にも珍しい仏足石や補陀落渡海碑がある。

お大師さんの思い出話 昭和初期、林昌寺では毎月二十一日に「お大師さんがひらかれ」綿菓子やちえの輪を売る屋台が、本堂から山門の外まで両側に並び、いつも大賑わい。なかでもよく覚えているのは、ひょうたん形の瓶に入った、一本一銭のみかん水。瓶が欲しくて、父に

ねだって買ってもらったもの、帰りに落として割ってしまったところ「黙ってもう一本買ってきてくれた」父の優しさを今でもよく覚えているとのこと。  
（大正十年代生まれの方より）  
お大師さんとは？  
空海（弘法大師）。真言宗の開祖で旧暦三月二十一日が命日。  
問合せ先  
泉南市教育委員会生涯学習課  
072（483）210003  
古代史博物館・泉南埋蔵文化財センター  
072（483）67889  
平成二十年十月発行  
掲載内容は平成二十年七月時点のものです



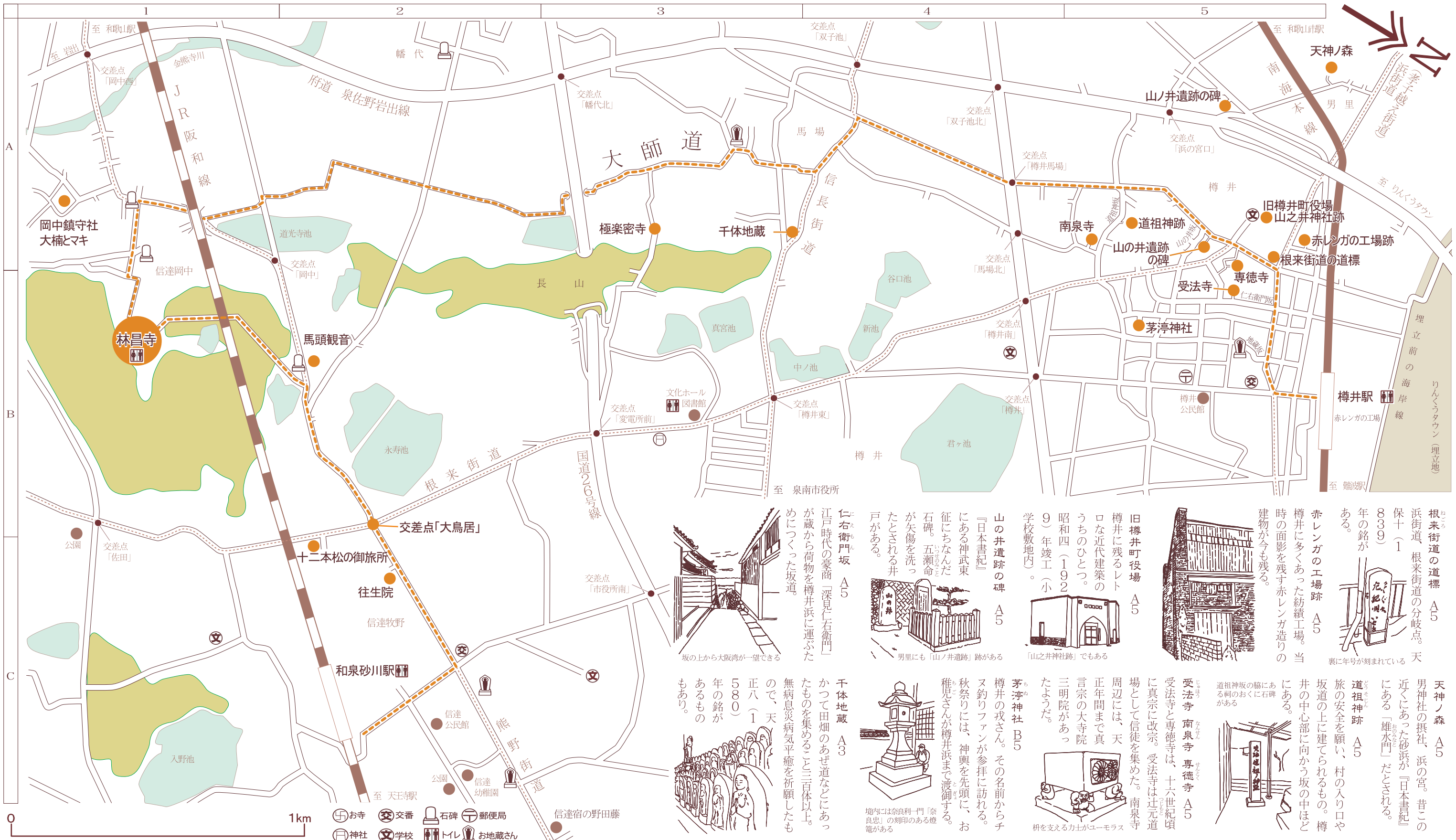
### 交通機関のご案内

南海電鉄 難波駅から急行で泉佐野駅まで。各駅停車に乗り換えて約50分で樽井駅。樽井駅は急行停車しませんのでご注意ください。

JR阪和線 天王寺駅から快速和歌山行で50分で和泉砂川駅。関空快速乗車の場合は、日根野駅で和歌山方面へ乗り換え。

関西国際空港 スカイシャトルバスで「イオンモールりんくう」バス停下車。バス停から徒歩15分で樽井駅。





和泉砂川駅	往生院	大鳥居交差点	御十二本松の御旅所	馬頭観音	林昌寺	岡中鎮守社 大楠とマキ	極楽密寺	千体地藏	南泉寺	道祖神跡	山之井遺跡碑	山之井神社跡	旧樽井町役場	専徳寺	根来街道の道標	天神ノ森	工場跡	受法寺	茅渟神社	樽井駅	
2km・40分・平坦な市街地 熊野街道沿いを歩く ノコギリ屋根の工場あり	1km・20分 ゆるやかな坂道 竹やぶをぬける	3km・60分・平坦 玉ねぎ小屋が点在する 田園風景	3km程度・60分・坂道多い市街地 近世の町屋と 近代のレトロな建物が点在 高台からは大阪湾が一望できる 路地を探検してみると面白い																		

**仁右衛門坂 A5**  
江戸時代の豪商「深見仁右衛門」が蔵から荷物を樽井浜に運ぶためにつくった坂道。  
坂の上から大阪湾が一望できる

**山の井遺跡の碑 A5**  
『日本書紀』にある神武東征にちなんだ石碑。五瀬命が矢傷を洗ったとされる井戸がある。  
男里にも「山の井遺跡」跡がある

**旧樽井町役場 A5**  
樽井に残るレトロな近代建築のうちの一ひとつ。昭和四（1929）年竣工（小学校敷地内）。  
「山の井神社跡」でもある

**赤レンガの工場跡 A5**  
樽井に多くあった紡績工場。当時の面影を残す赤レンガ造りの建物が今も残る。  
裏に年号が刻まれている

**根来街道の道標 A5**  
浜街道、根来街道の分岐点。天保十（1839）年の銘がある。  
裏に年号が刻まれている

**千体地藏 A3**  
かつて田畑のあぜ道などにあったものを集めること三百体以上。無病息災病氣平癒を祈願したもので、天正八（1580）年の銘があるものもあり。  
境内には奈良利一門「奈良良忠」の刻印のある燈籠がある

**茅渟神社 B5**  
樽井の戎さん。その名前からチヌ釣りファンが参拝に訪れる。秋祭りには、神輿を先頭に、お稚児さんが樽井浜まで渡御する。  
境内には奈良利一門「奈良良忠」の刻印のある燈籠がある

**十二本松の御旅所 C2**  
金熊寺の信達神社から樽井浜に渡御する神輿が、ここで座配りを行った。交差点にあった大鳥居もここに移されている。  
室町時代のものでとされる二面石仏（板碑形宝塔）は珍しい。側面には「白鳳」「道照」の文字がかすかに残る。

**道祖神跡 A5**  
旅の安全を願い、村の入り口や坂道の上に建てられるもの。樽井の中心部に向かう坂の中ほどにある。  
道祖神坂の脇にある石碑がある

**天神ノ森 A5**  
男神社の撰社、浜の宮。昔この近くにあった砂浜が『日本書紀』にある「雄水門」ととされる。  
「馬頭さん」として親しまれ、馬と歩む道中の安全や農耕馬を祀ったとのこと。一説では「信達」ノ瀬王子」だとも言われる。  
祠の中をよく見ると どれが馬頭さんか分る

**和泉砂川駅 C2**  
昭和五（1930）年、阪和電鉄「信達駅」として開業。砂川奇勝と砂川遊園の最寄駅であり三角屋根の駅舎は当時のまま。

**十二本松の御旅所 C2**  
金熊寺の信達神社から樽井浜に渡御する神輿が、ここで座配りを行った。交差点にあった大鳥居もここに移されている。

**馬頭観音 B2**  
「馬頭さん」として親しまれ、馬と歩む道中の安全や農耕馬を祀ったとのこと。一説では「信達」ノ瀬王子」だとも言われる。  
祠の中をよく見ると どれが馬頭さんか分る

**極楽密寺 A3**  
義民小平次・ゆぎりの碑・小坂屋小十郎など、この地域を舞台にした伝承がこの寺に祀られている。  
境内にある「小坂屋大明神」キツネたちを今も祀っている